

巻頭言

今なお新型コロナウイルス感染症対応にご尽力されている保健医療福祉の従事者の皆さまに心より敬意を表します。

石川県立看護大学は令和3年(2021年)度、開学から22年目を迎え、今年度は学部卒業生83名、大学院修了生11名(博士前期課程10名、博士後期課程1名)を巣立たせることができました。新型コロナウイルス感染拡大の中、2年間を過ごし、さまざまな制約がありつつも、オンライン授業も日常の光景となり、学部生と教員は工夫をしながら看護学実習に取り組んだ時期でありました。また、大学院生は研究のために臨地に出ることに限界も生じましたが、粘り強く取り組み、限界がある中でも、それぞれの研究テーマを深めることができました。これは教職員一同の教育研究上の新しい試みや大きな支えがあったからこそ成し遂げられたことであると思うと深い感動を覚えます。このような感染拡大の時節であるからこそ未来の看護職者、研究職者を育てるために教育や研究を止めてはならないとさらに気持ちを深めた年でありました。

令和3年度は、本学の魅力を高校生や中学生の方々にも伝わるよう高大接続やオープンキャンパスなどコロナ禍にありながら、広報活動に力を入れました。それはコロナを経験した未来の看護職のイメージは大きく変わっていくことであろうと予想したからです。

地域ケア総合センター事業では、人材育成や地域連携事業では、各分野の事例検討会や研修会が再開されてきました。令和2年度から開始された「わたしと地域の未来を変革するSDGs」は、持続可能な未来社会を構築していく上で貴重な学びを提供してくれる取り組みであったと思います。また、国際貢献事業では海外に出かけることやお迎えすることは難しいけれど15年余り継続してきたJICA日系研修がオンラインで開催され、地球の反対側の人々とICTでつながることができました。

看護キャリア支援センター事業では、この時代に求められる「感染管理認定看護師」の教育課程を継続することができ、44名の修了生を輩出することができました。県内外の感染対策に大いに活躍をされていくものと思います。また、多様なヘルスケアニーズをもつ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度の習得を目的とした「認定看護管理者(サードレベル)」教育課程では28名の修了生を送り出すことができました。石川県立看護大学の教育課程で学ばれた看護管理者ネットワークが本学の教育・研究の充実に寄与して下さることを願ってやみません。

このような本学が取り組む教育・研究・社会貢献のすべての事業は、国連が提唱するSDGsに位置づけられ、一人ひとりが真の豊かさを実感でき、生涯にわたり生きがいと活力をもって暮らすことができるように、引き続き社会に求められる教育機関として本学のさらなる発展を追究してまいりましょう。

皆さまからの本学に対する忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いに存じます。

石川県立看護大学 学長 真田弘美



第 22 回入学式（令和 3 年 4 月 6 日）



石垣和子学長 最終講義「文化看護学への歩み」



令和 3 年度日系社会研修 開講式



「インターナショナルカフェ」(令和4年3月2日)



石川県看護教員現任研修
(令和3年10月16日)



感染管理認定看護師教育課程 開講式
(令和3年7月1日)



第18回卒業式・学位授与式(令和4年3月19日)